

<p style="text-align: center;">教育目標(めざす児童生徒像)</p> <p>輝く笑顔 弥生っ子 やさしく助け合う子 よく学び よく考える子 いきいき活動する子</p>	<p style="text-align: center;">今年度の指導の重点</p> <p>【豊かな心】 自他共に大切にし、円滑な人間関係を育成する集団づくり 道徳的実践力の育成 コミュニケーション能力の向上 【確かな学力】 学ぶ楽しさや学習意欲を喚起する授業づくり 体験的な学習、問題解決的な学習の充実 基礎・基本の確実な定着 家庭学習の充実 【健やかな体】 基本的な生活習慣・運動習慣の確立(体力向上) 食に関する指導の充実 日常体育の充実と外遊びの奨励・充実 危険予知、回避能力の育成</p>
<p>調査結果について(調査結果において明らかになったこと)</p>	
<p>【学力状況調査の結果】</p> <p>全国 国語A、Bとも県平均を大きく上回った。 算数A、Bも県平均を上回った。 国語は、必要な内容を適切に引用して書いたり、複数の内容を関係づけながら自分の考えを具体的に書いたりする記述問題は県平均を大きく上回っているが、正答率は低い。 算数は、小数の足し算、概数、平均求める問題が県平均より下回っていた。記述問題は県平均を大きく上回っていた。</p> <p>県 国語、理科、社会は県平均を上回った。 算数は、ほぼ県平均だった。小数や分数の計算、三角形・台形の面積を求める問題に課題がある。 社会は地図の読み取りと平野名が県平均より低かった。また、理由を説明する問題には県平均を上回っているが、課題がある。</p>	<p>【学習状況調査の結果】</p> <p>「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している」「自分にはよいところがある」「将来の夢や目標を持っている」など、自分に肯定感持っている児童の割合が高い。 平日に1時間以上ゲームをしたり、テレビを見たりしている児童の割合は、県平均より低く、昨年度より減少した。家庭での学習時間(1時間)の割合が、昨年度や県平均と比べてもとても多い。 また、計画を立てて予習・復習をしている児童の割合も県平均より多い。特に復習をしている児童の割合は県平均を大きく上回る。 読書を1日に30分以上する児童や、図書室・図書館に行く児童の割合はほぼ県平均である。 児童会を中心にあいさつ運動に取り組んでおり、「あいさつをしている」の項目に「あてはまる」と答えた児童の割合が、県平均よりかなり高く、昨年度よりも高くなっている。 発表をする機会や、話し合う活動が授業の中でとられていると感じる児童が多く、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりする活動が難しいと思わない児童は比較的多い。学力テストで文章表記の問題の正答率は、県平均よりかなり多く、無解答の児童も少ない。</p>
<p style="text-align: center;">成果と課題</p> <p>全体的には、学習に対して前向きな児童が多い。「家庭学習の手引き」を年度始めに配り、児童に家庭学習の仕方や内容を提示するとともに、家庭にも学習習慣を作るような呼びかけをした。また、自主学習についてもモデルを示すなどして、児童の意欲づけとした。これが、家庭学習の定着につながったと思われる。 授業の始まりに確実にめあてを提示すること、また、自分の考えを持ち文章にすること、振り返りを自分の言葉でまとめることを意識して取り組んだ。文章記述式の問題に苦手意識を持つ児童は少なくなったが、まだ、十分ではない。算数に意欲的に取り組んでいる児童は多いが、基礎的・基本的な定着が不十分な児童の指導が必要である。 昨年より取り組んだPTAによる「ノーメディアデー」の成果が現れ、テレビ等の視聴時間が減った。</p>	<p style="text-align: center;">課題に対応した改善方法</p> <p>図や文章を活用し考えをまとめたり、学習を振り返る活動では自分の言葉で書かせたりして、それを適切に評価する活動を、引き続き授業の中に活動を取り入れる。 子どもたちがお互い支え合い、助け合えるような「問題解決型」の学習を取り入れ、主体的に学習に取り組むような環境を作る。 基礎・基本の定着を図るため、家庭学習、朝モジュール等で現学年、前学年までの既習問題をスパイラルに取り組ませる。 放課後の補充学習を週1回行い、基礎・基本の定着を図る。 朝モジュールの時間を利用し、県・全国学力テストの問題を既習学年に取り組ませ課題をつかみ、定着を図る。また、文章記述問題にも多く触れさせ、文集記述に対する苦手意識をなくする。 復習ができていない児童は比較的多いが、予習についても自主学習のモデルを示し、さらに定着させる。 ノーメディアデーの取り組みを定期的に行い、保護者の意識喚起を図るとともに、より一層習慣化の定着を図る。今年度より、高学年の算数で3コースの習熟度別指導を行っている。個にあった指導の充実を図る。</p>
<p style="text-align: center;">取組の検証方法及び検証時期</p> <p>3学期に5年生で全国学力テスト、6年生で県の学力テストを行い定着状況を確認する。 チェックシートを使い、全クラスが岡山県到達度確認テストを活用し、理解が不十分な問題を定着させる。 学習・生活アンケート(毎月)の実施 朝モジュールで県・全国学力テストの問題に取り組ませ定着状況を確認する。</p>	<p style="text-align: center;">達成目標(数値目標)</p> <p>全国・県学力テストの全ての教科で県平均を上回る。 家庭学習が1時間以上の児童(5・6年生)の割合を80%以上にする。 1日、30分以上読書をする児童の割合を50%以上にする。</p>